

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの個性の伸長を図る教育活動により、将来社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される学校をめざす。

1. 生徒一人ひとりが、自分の持つ能力を十分に発揮できるよう、学習指導、生徒指導、キャリア教育を推進する。
2. 守るべき規範と果たすべき役割を自覚し、社会に貢献する志を持つ生徒を育成する。
3. 中学校との連携、保護者や地域との連携を推進し、地域での存在価値と信頼感を高めていく。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 「わかる授業」「参加する授業」をめざした授業力向上に取り組み、生徒が主体的に学習する力を身につける。
 - ア 教員相互の授業見学・研究授業等を活用した授業改善を組織的に取り組む。
 - イ ICT機器の効果的授業活用の促進をめざすとともに、特にタブレット型端末の充実と活用を図る。
 - ウ アクティブラーニングを取り入れ、言語活動の充実を図るとともに、生徒の主体的な授業参加をめざす。
 - ※ タブレット型端末の充実
 - ※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成 28 年度 73.8%)を上昇させ、平成 31 年度には 80%以上にする。
 - ※ 学校教育自己診断における生徒の授業満足度(平成 28 年度 64.7%)を、平成 31 年度には 70%以上にする。
- (2) 一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する。
 - ア 習熟度別少人数展開授業の充実を図る。
 - イ 学力定着のための補習や発展的学習を進める講習を計画的に実施する。

2 豊かな人間性をはぐくむ生徒指導の充実と安心・安全な学校生活の推進

- (1) すべての教育活動を通じて、規範意識の醸成、自らを律し他人を思いやる心を育てる。
 - ア 時間遵守、身だしなみ等、規範意識の醸成に努め、授業規律の確立を図る。
 - イ 相互に笑顔であいさつができる習慣を身につける。
 - ウ 交通マナーの向上を図る。
 - ※ 欠席・遅刻について前年度比 8%の減少を図る。
- (2) 生徒の自主的活動を支援し、可能性を最大限に伸ばす教育を実践して、自己肯定感を育てる。
 - ア 学校行事や生徒会活動を通じて生徒の主体的な参加を推進するとともに、集団の中で活動できる能力を育成する。
 - イ 部活動の活性化に向けた取組みの推進。
 - ウ 地域の行事等に積極的に協力するなど、地域との連携を図り、社会に貢献することの大切さを理解させる。
 - エ 高大連携校との活用促進をめざす。
- (3) 安心で安全な学校生活の推進
 - ア 人権教育・国際理解教育の取組みを通じて、生命や人権を大切にすることを育てる。
 - イ 保健指導と教育相談体制の充実。
 - ※ 学力保障等の取組みと併せて中途退学者を減少させ、平成 29 年度末には在籍の 1%以下にし、以降それを継続する。

3 「やる気」を起こさせるキャリア教育の充実

- (1) キャリア教育のさらなる充実を図り、主体的に進路を決定する生徒を育てる。
 - ア 望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養うキャリア教育を推進する。
 - イ 生徒一人ひとりの希望と適性に合致した進路決定をめざし、進学・就職指導の充実を図る。
 - ウ 進路だよりを定期的に発行し、保護者や地域に適切な進路情報を提供する。
 - ※ 学校教育自己診断における生徒の進路指導満足度(平成 28 年度 77.3%)を平成 31 年度には 80 パーセント以上にする。
 - ※ 進学決定率(平成 28 年度 94.0%)を上昇させ、平成 31 年度には 96 パーセントをめざす。
 - ※ 学校教育自己診断における保護者の進路指導満足度(平成 28 年度 78.5%→平成 31 年度 80%以上)及び進路情報満足度(平成 28 年度 66.9%→平成 31 年度 70%以上)をめざす。
 - ※ 学校紹介就職内定率(平成 28 年度 100%)を継続させる。

4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上

- (1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化する。
 - ア 中学校訪問、学校説明会等を計画的・組織的に実施し、本校教育内容の周知を図る。
 - イ HPの充実
 - ウ 適切な情報発信に努め、保護者等からの理解を得るとともに、協力体制をさらに充実させる。
 - エ PTA活動を推進し、学校行事への保護者及び地域からの参加の促進を図る。
- (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。
 - ア 学校運営体制の確立
 - イ 人材育成に努め、特にミドルリーダーの育成、初任者等教職経験年数の少ない教員の資質向上を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年実施分]	学校協議会からの意見
<p>保護者6月、生徒10月、教員1月 実施 すべての診断で、質問項目の精選（保護者 23→10、生徒 20→12、教員 40→13）し、より課題の明確化を図った。</p> <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「わかる授業」「参加する授業」の実現に向け、ICT活用など、授業改善に努めた結果、学校教育自己診断の生徒の授業満足度は(64.7%→66.3%)と上昇したが3年生の値が低い(62.8%)の気になる。保護者の授業満足度は、驚異的に上昇(45.9%→81.9%)した。一方、生徒の授業アンケートにおける各授業への満足度の平均値は75.1%であり、昨年度(73.8%)より上昇したが、目標の76%には及ばなかった。引き続き、生徒の実態に即した授業改善に向けての取組みの充実が必要である。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 丁寧かつ熱心な生徒指導のもと、全体満足度(71.4%→68.7%)・学習環境(65.3%→52.4%)・学校行事(78.3%→71.0%)で下降したが、教育相談(親身63.3%→66.2%、気軽に48.6%→56.9%)・生活規律(67.6%→71.7%)・人権(63.0%→69.4%)・安心安全(58.0%→71.3%)で満足度が上昇しており、学年進行でも(授業3年以外)きっちり上昇している。遅刻や身だしなみ等保護者の理解を得ながらの丁寧な指導により、一人ひとりの生徒を大切に、教育相談体制の整備、自信と誇りを醸成する教育体制が浸透しはじめている。 <p>【進路指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 系統的キャリア教育及び生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導のさらなる充実の結果、進路指導関係満足度は、生徒・保護者ともに上昇(生徒77.3%→81.3%、保護者 進路情報66.9%→83.6%、指導78.5%→86.2%)した。今年度の取組みをもとにさらなる充実を図りたい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施時期を6月にした影響もあって、保護者(特に1年)の各項目の満足度が高くなっており、保護者の期待が高まっている。全体の平均値からみて、今年度の肯定的評価は、高い順に保護者(69.7%→83.1%)・教員(58.1%→81.1%)・生徒(62.4%→68.3%)となり、昨年度と比べ保護者・生徒・教員ともに上昇(保護者+13.4、生徒+5.9、教員+23.0)となっており、教員の学校経営への参画意識が、高まってきているととれる。次年度は、生徒への周知徹底と教員の意識をさらに高める取組みの充実を図りたい。 	<p>【第1回：7月7日(金)開催】</p> <p><平成29年度学校経営計画について></p> <ul style="list-style-type: none"> 新制服の評判を確認し、パンフレット等広報でアピールしてほしい。 SNSによるトラブル防止の取り組みの効果を検証すべき。 教員の資質向上・学校の組織力向上の具体的取組を進めてほしい。 学校教育自己診断(保護者)結果は、全般的に評価できる。 自転車マナーや交通安全指導の現状を検証してほしい。 就職後の状況(離職や再就職も含む)の情報収集し、今後の指導に役立てることはできないか。 <p>【第2回：11月20日(月)開催 授業見学も実施】</p> <p><平成29年度学校経営計画進捗状況について></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導が次のステップ(マナー指導など)に進んでいる印象を受ける。 生徒の学校教育自己診断アンケート結果(学校行事特に体育祭)から、リーダー生徒と一般生徒に温度差(指導に対して)があるのではないかと。もっと学校全体として周知徹底させる工夫が必要なのではないか。 11月の文化祭や12月の「青少年の主張」など、地域との連携の深まりを評価する。中学校への出前授業など更なる連携を期待したい。 見学した授業(理科2年目教員・国語3年目教員)の様子から経営計画の様々な取組み(授業力向上・授業規律・遅刻減少など)が相互に作用して、良い方向に向いているのではないかと。 校則(頭髪が世間で話題に)については、保護者の理解を得ながら指導しており、改訂も検討していることに評価する。 <p>【第3回：2月13日(火)開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒に対する指導は、ごくごく当たり前のことで、教員の伝え方の工夫でもっと良くなるのではないかと。風紀面での指導のステップアップに不可欠な「チーム力」が、門真西にはあり、今後さらに高めてほしい。 「Better than Before」過渡期には必ず反発はある。改善に時間のかかる取組みもあせらずに取り組んで欲しい。 様々な取組みで校長のリーダーシップのもと活性化されている。自己診断「◎」がもっとあってもいいのではないかと。 キャリア教育・地域連携では、自己診断結果にも数字として顕われており、評価できる。 次年度から学校運営協議会となり、名称と役割について説明。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>確かな学力の育成</p>	<p>(1)「わかる授業」「参加する授業」をめざした授業力向上の取組み。 ア 教員相互の授業見学・研究授業等を活用した授業改善を組織的に取り組む。 イ ICT機器の効果的授業活用の促進をめざすとともに、特にタブレット型PCの充実と活用を図る。 ウ アクティブラーニングを取り入れ、言語活動の充実を図るとともに、生徒の主体的な授業参加をめざす。</p> <p>(2)一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する。 ア 習熟度別少人数展開授業の充実 イ、個に応じた学習指導の実践</p>	<p>(1) ア・各授業の初めにその授業の目標を提示するとともに、授業の終わりに振り返りを行う。 ・教員相互の授業見学等をさらに活発にするため、年間2回に分け、教科・学年を超えた少人数のグループを編成し、授業観察をおこない、授業改善について研究を行う。 ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ、授業アンケート結果を各教員及び教科で効果的に活用し、授業改善を推進する。 イ・ICTを活用した授業づくりを組織的に学校全体で推進する。 ・特にタブレット型端末の充実(現状15台)と活用を図る。 ウ・アクティブラーニングを取り入れた授業改善に向けて教員研修を充実し、授業力向上の取組みの活性化を図る。</p> <p>(2) ア・教科別に、少人数展開授業について基礎学力の定着及び学力向上の観点から総括し、より効果的な授業を行う。 ・少人数授業の効果検証方法の構築をめざす。 イ・生徒の基礎学力の定着が図られているか、各教科担当間において定期的に授業内容・方法等を検討する。 ・学力定着のための補習や発展的学習を進める講習を各学年、教科、教務部、進路指導部を中心に計画的に実施する。 ・各種検定試験に向けた講習を積極的に実施し、講習参加者を増加させる。</p>	<p>(1) ア・授業観察時の授業目標提示100% ・初任者の公開研究授業を1人年間1回以上実施できたか。 アイ・2学期の興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度76%以上(H28:73.8%)。 ・学校教育自己診断における生徒の授業満足度67%以上(H28:64.7%)。</p> <p>イ・タブレット型端末の充足(H29年新規5台購入)が図られ、授業で活用できたか。</p> <p>アイウ・相互の授業観察により授業改善に向け検討するとともに、授業に生かせることができたか。(学校教育自己診断における教員の学習指導方法の工夫・改善に対する肯定率73%以上(H28年69,6%))</p> <p>ウ・アクティブラーニングに関する研修が実施できたか。</p> <p>(2) アイ ・科目不認定者数を160名以下。(H28:181名)</p> <p>イ・補習講習参加者の増加(前年度比8%増)(H28,1・2年生放課後講習計284名、各種検定(漢字・数学・英語・ワープロ)H28受験者約200名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業目標提示100%(△) 初任者の公開研究授業3名とも11月(○) 興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度75.1%(△) 生徒の授業満足度67%以上(66.3% △) タブレット型端末5台購入(体育・社会等で活用 ○) 自己診断(教員)学習指導方法工夫・改善肯定率82.9%(◎)開催 アクティブラーニングに関する研修授業に関する研修10/5先進校視察伝達講習(○) 科目不認定1月追認まで2名前前より減少見込み(○) 補習講習参加1月まで英数国だけで400名超(◎) 各種検定受験134名(△)

府立門真西高等学校

<p>2 豊かな人間性をはぐくむ生徒指導の充実と安心・安全な学校生活の推進</p>	<p>(1)すべての教育活動を通じて、規範意識の醸成、自らを律し他人を思いやる心を育てる ア 時間遵守、身だしなみ等、規範意識の醸成に努め、授業規律の確立 イ あいさつができる習慣を身につける。 ウ 交通マナーの向上。</p> <p>(2)生徒の自主的活動を支援し、可能性を最大限に伸ばす教育の実践。 ア 学校行事や生徒会活動を通じて生徒の主体的な参加を推進。 イ 部活動の活性化に向けた取組の推進。 ウ 地域との連携を図り、社会に貢献することの大切さを理解させる。 エ 高大連携校との活用促進。</p> <p>(3)安心で安全な学校生活の推進 ア 人権教育・国際理解教育の取組を通じて、生命や人権を大切にすることを育てる。 イ 保健指導と教育相談体制の充実。</p>	<p>(1) ア・欠席・遅刻について、一斉登校指導の実施等、生徒指導部、各学年、担任が協力して、保護者と連携した指導をおこなう。特に常習者への指導を強化する。 ・「ベル着指導」「起立・礼」「机上の整理・整頓」「授業準備」などの指導方針の統一、教室環境の整備により、授業の集中力を高め、授業規律の確立を図る。 イ・学校全体で「おはようあいさつ運動」を行うとともに集会等いろいろな機会を通じて指導する。また、日々の学校生活の中で教員側から挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気を醸成する。 ウ・生徒指導部中心に年間通して外部機関等を活用して自転車乗車マナーの向上を図る。</p> <p>(2) ア・生徒指導部、西高祭委員会、学年が協力して、リーダー研修を充実させる。 ・生徒自治の精神を養い、体育祭、文化祭、修学旅行等の学校行事を成功させて、自己肯定感を育てる。 ・生徒の自己肯定感を高める取組みのさらなる充実を図る。 イ・部活動の継続を支援するため、入部機会の拡充を図る。 ・門真西高カップ(バスケットボール大会)を他の部活動でも開催することにより、中学校との交流機会をさらに広げ、部活動の活性化を図る。 ウ・門真市等地域行事への参画をめざす。 ・学校全体で郊外の清掃活動「ピカピカ隊」のさらなる活性化を図る。 エ・高大連携校との新たな活用を検討する。</p> <p>(3) ア・総合的な学習の時間、LHRを計画的に実施し、いじめの防止、人権尊重の教育、情国際理解教育を推進するとともに心のアンケートを実施し適切に対応する。 ・ネットリテラシーなど新たな人権教育の取組みを進める。</p> <p>イ・教育相談委員会、学年会、中退防止連絡会が情報を共有して、長期欠席者等への早期対応を行うとともに、SC、関係機関との連携を推進し、相談活動を充実させる。 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を確立し、「高校生活支援カード」「個別の教育支援計画」の適切な活用を図る。 ・教職員の救急講習会全員参加。 ・保健部を中心に、生徒に「自分の健康(命)は自分で守る」という意識の醸成を図る。</p>	<p>(1) ア・欠席・遅刻の前年度比8%減。 ・授業アンケート「集中して学習に取り組む」に対する肯定的な回答が昨年度を上回ったか。(H28:4点満点中3.19) イ・「あいさつ運動」を年間5回以上実施。 ・学校協議会での意見、外部(来校者)評価。 ウ・自転車乗車マナーが向上したと感じている生徒の割合50%以上。</p> <p>(2) ア・リーダー研修後の参加者アンケートにおける満足度、肯定的意見90%以上。(H28:100%:12月現在) ・学校教育自己診断(生徒)における学校行事満足度が昨年度(H28:78.3%)を上回ったか。 イ・部活動加入の機会を増やせたか。(H28:4月のみ) ・門真西高カップの拡充ができたか。(2種目) ウ・地域行事に参画できたか。「門真市文化祭」「防犯キャンペーン」「青少年の主張」「春を呼ぶコンサート」 エ・連携校との新たな企画が実行できるか。(H28:リーダー研修)</p> <p>(3) ア・心のアンケートの実施と実態把握及び適切な対応ができたか。 ・ネットリテラシーについての啓発がおこなえたか。</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)における「教育相談」に対する肯定的な回答が昨年度(H28:「親身に対応」63.3%「気軽に相談」48.6%)を上回ったか。</p> <p>・各種連携および「高校生活支援カード」「個別の教育支援計画」の作成と適切な支援に広がり、深まりがあったか。 ・教職員の救急講習会参加100% ・生徒の健康・安全に対する意識が高まったか。</p>	<p>・12月まで遅刻26%減(◎) 欠席2%減(△) ・「集中して学習に取り組む」第2回 3.20(○)</p> <p>・「あいさつ運動」交通安全運動含めて5回(○) ・学校協議会・外部評価あり(○) ・自転車マナー向上48.7%(△)</p> <p>・リーダー研修肯定95%(○) ・学校行事満足度71.0%(△)</p> <p>・10/24~27秋の部活動体験(○) ・西高カップ バスケットボール(3月29日ラグビー予定 ○) ・地域行事に参画すべてに参加、参加予定(○) ・スポーツ交流(大阪国際大学留学生○) ・心のアンケート把握・対応11月実施12月把握対応(いじめ等につながる事象がないか個別に丁寧な聞き取りを実施)(○) ・ネットリテラシーについては、学期ごとに情報発信時のマナーの啓発及び関連事例発生時の迅速な対応ができた。(○) ・「親身に対応」66.2%(○) 「気軽に相談」56.9%(○)</p> <p>・支援カード活用による「個別の教育支援計画」の作成にまでつなぐことができなかった。(△) ・教職員の救急講習会参加100%6/29(○) ・自己診断(生徒)「命の大切さ・・・」71.3%(◎ H28 58.0%)</p>
<p>3 「やる気」を起こさせるキャリア教育のさらなる充実</p>	<p>(1)キャリア教育のさらなる充実を図り、主体的に進路を決定する生徒を育てる。 ア 望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養うキャリア教育を推進する。 イ 生徒一人ひとりの希望と適性に合致した進路決定をめざし、進学・就職指導の充実を図る。 ウ 進路だよりを定期的に発行し、保護者や地域に適切な進路情報を提供する。</p>	<p>(1) ア・進路指導部と学年が協力して、第1学年において進路講演会及び職業別ガイダンス、第2学年において進路体験学習や進路別集中講座、第3学年において進路別説明会等のキャリア教育を生徒の実態に応じて実施することで、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。</p> <p>イ・就職学習会を3年生で実施する。 ・教員はじめ、ハローワーク職員、外部指導者等様々な面接官による模擬面接を個人または集団の形式で実施することで実践力を身につけさせる。 ・事前指導をしっかりと行ったうえで応募前職場見学を実施し、生徒の希望と受験事業所とのミスマッチを防ぐ。 ・2年及び3年時に模試を実施し、受験に向けての意識を高めさせるとともに、志望校を決定させる。 ・第3学年及び各教科と協力して進学講習を実施する。</p> <p>ウ・進路だよりを定期的に発行し、保護者や地域本校の進路指導の取組みを紹介するとともに適切な進路情報を提供する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)におけるキャリア教育満足度の上昇。(H28:77.3%) ・進路未決定者18%以下。(H28:18.4%)(12月末) ・フリーター希望者9.0%以下。(H28:9.4%)(12月末)</p> <p>イ・就職学習会の週1回の実施。 ・模擬面接の1人5回以上の実施。 ・応募前職場見学の1人2か所以上の実施。 ・学校紹介就職希望者の就職内定率98%以上。 ・第2学年までに1回以上、第3学年で2回以上の校内模試を実施できたか。 ・夏季休業中の進学講習の実施と希望に応じた個別講習が実施できたか。</p> <p>ウ・進路だよりの年間5回以上の発行 ・学校教育自己診断(保護者)における「進路についての必要な情報をよく知らせてくれる」に対する肯定的な回答が昨年度(H28:66.9%)を上回ったか。</p>	<p>・キャリア教育満足度81.3%(○ H28 77.3%) ・進路未決定(1月末16.2% ○) ・フリーター(1月末8.3% ○)</p> <p>・就職学習会 実施済み(○) ・模擬面接1人5回以上(平均7回以上) 実施済み(○) ・応募前職場見学1人2回以上実施(○) ・就職内定率100%(○) ・校内模試2年1回(11月)3年2回(4・9月)実施済み(○) ・夏季休業中の進学講習実施及び進路に応じた個別講習(国英数社理)実施(○) ・進路だより 年間5回以上現在5回 9月(○) ・「進路の必要な情報」83.6%(◎)</p>

府立門真西高等学校

<p>4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる学校力の向上</p>	<p>(1) 広報活動を推進する体制の強化及び学校教育活動の活性化。 ア 中学校訪問、学校説明会等の組織的な実施。 イ HPの充実 ウ 効果的で適切な情報発信 エ PTA 活動の推進、学校行事への保護者、地域住民の参加促進。</p> <p>(2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。 ア 学校運営体制の確立 イミドルリーダーおよび初任者等教職経験年数の少ない教員の育成</p>	<p>(1) ア・広報委員会を中心に学校全体で、中学校訪問、学校見学会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 ・学校紹介リーフレットのリニューアル。 ・第1学年の生徒や部活動生徒による出身中学校への訪問実施の検討。 イ・タイムリーなHPの更新に努め、保護者及び中学生に門真西学校への関心度を高める。</p> <p>イウ・学年・分掌・部活動等での活動状況を定期的かつ適切に情報発信を行い、保護者等の理解を得るとともに、協力体制をさらに充実させる。</p> <p>エ・三者(生徒・保護者・教員)交流委員会を活性化し、学校行事への保護者、地域からの参加を促進する。</p> <p>(2) ア・コア・ミーティング(校長・教頭・事務長・首席・指導教諭)及び運営委員会が、学校運営の中心となるよう確実な定着をめざす。 イ・府教育センターの研修なども活用し、ミドルリーダーの育成に努める。 ・首席・指導教諭を活用し、日常的なOJTの推進に加え、教職経験年数の少ない教員等の校内研修を計画的、組織的に実施する。特に初任者を含めた2年目から概ね4年目の教員を対象にフレッシュミーティングを実施し育成体制の充実を図る。 ・職員研修を計画的に実施するとともに、必要に応じて伝達研修を実施する。</p>	<p>(1) ア・全教員が中学校訪問、学校見学会及び説明会に参画したか。 ・リーフレットのリニューアルをはじめ、タブレット型端末の充足を図り、外部実施での説明会において、中学生によりわかりやすい広報を実施する。 ・新たな企画など、広報活動に広がり、深まりがあったか。 ・参加中学校関係者数の増加(H27: 校内説明会 322名、校外説明会 中学生 217名、保護者 112名) イウ・2週間に1度、HPの更新ができたか。 ・「学校情報の提供の努力をしている」に対する肯定的回答が昨年度(H28: 80.1%)を上回ったか。 エ・参加人数や参加者の声(H27: 中学生約1100名、保護者約200名、引率教員約140名)</p> <p>(2) ア・学校全体を見据え、学校運営について企画・検討・調整ができたか。 イ・外部研修等を積極的に活用し、首席、指導教諭等につながる人材を育成できたか。 ・フレッシュミーティングを8回実施。 ・職員研修を計画的に実施できたか。各学期1回以上実施できたか。</p>	<p>・全教員参画(門真市各連絡会含む)(○) ・リーフレットのリニューアル、タブレット型端末での広報(PPTの校内スライド見せながら説明等)実施(○) ・制服(素材・着心地等)のアップール(○) ・参加中学校関係者数 校内461名(◎)、校外 中学生 350名(◎)、保護者 184名(○) ・HP更新 1月まで43日75項目(平均4日に1回)(○) ・学校情報提供 77.8%(△)</p> <p>・参加人数や参加者の声 生徒(中学生含む)1200名(○)、保護者 850名(◎)、引率教員 150名(○) ・コア・ミーティング毎週(○) ・明日のリーダー研修1名(○) ・フレッシュミーティング 3月に第8回を予定(○) ・職員研修を計画的に、各学期1回以上実施(○)</p>
--	---	---	---	---